

# NPO 自立支援センター ふるさとのかい

2008.08.20  
【第8号】



これはHTML形式のMAILです。オンラインで無い場合は画像が表示されない可能性があります。

[HOME PAGE](#)

[SCHEDULE](#)

[EVENT etc](#)

※ふるさとのかいのメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。  
今後もふるさとのかいの活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。  
ご不要の場合はお手数ですがご返信くださいますようお願いいたします。

## INDEX

- ① ヘルパーステーションふるさと研修
- ② 2008年山谷夏まつり報告
- ③ 隅田川花火大会鑑賞会 at ふるさとホテル三晃
- ④ 厚生施設・宿泊所協議会 シンポジウム参加報告
- ⑤ 国立精神・神経センター主催 精神保健指導過程研修 講師派遣  
『ホームレス支援と精神障害者の居住確保』
- ⑥ 今月のボランティア

### ① ヘルパーステーションふるさと研修『ヘルパー倫理とひやりはっと』

ヘルパーステーションふるさとでは年4回、ヘルパー全員を対象に全体研修会を行なっています。今回は、サービス提供にあたっての心がまえと事象事例検討を主題として、『ヘルパー倫理とヒヤリ・ハット』と題して、7月14日にヘルパー17名参加の下、研修を開催しました。

研修内容は、ヘルパーの心構え、対人援助技術の講習や、実際に起きた事例を元に事故が発生するまでに考えられる対策と、もし起こってしまった場合の対応をグループワーク形式で討議しました。

グループ討議ではプライバシーや救急対応マニュアルに沿った事細かな対策・対応方法があがり、事例と一人一人が向き合い、考え、意見し合っている真剣な様子が見て取れました。

アンケートでは「具体的話し合いにより、互いの意見や考え方を知る事ができた」「タイムリーな内容で、長く仕事をしていて(自分の中で)欠落していた(部分に気付かされた)」「忘れていた事が色々ありました」などの高評価が多かったようです。

今後も具体的な事例をもとに、みんなで考えられる対策などを話し合い、情報を共有する事により、スキルアップをして、よりよいサービス提供をしていきたいと思えます。

(松崎弘明)



参加ヘルパーから活発な質問が寄せられた質疑応答



グループ討議の発表の様子

### ② 山谷夏まつり2008のご報告

今8月16日(土)～8月17日(日)の2日間、山谷玉姫公園にて第32回山谷夏祭りを開催しました。今回は、初めて新宿ホームレス支援機構(新宿連絡会)との共同・同時開催という形で行いました。

昨今、ホームレス・路上生活者の状況に変化が表れています。これまでの山谷などの高齢者を中心とした生活困窮者以外に、新宿・秋葉原など、都市中心部のネットカフェ・24時間営業のファーストフードを「ねぐら」

とせざるを得ない若年不安定就業層の増加が問題となってきています。

ふるさとのお会と新宿連絡会は、こうした状況を踏まえ、これまで以上の協力関係を築いていくことの意志確認として今回の夏祭りの同時開催を行いました。

祭り1日目は、当初からの天気予報どおり雨。スタッフ一同、イベントの進行をどうするか、出演予定の皆様にご迷惑をおかけしないため、早めの決断が要求され、緊密に連絡を取り合いました。その結果、毎年恒例の高野山東京別院の僧侶の方々をお招きしての無縁供養・川施餓鬼は実施し、その他の演芸・演奏は中止という結果となりました。皆、楽しみにしていただけに残念です。

しかし、カレーの炊き出しと屋台での販売は実施しました。炊き出しの数はほぼ例年どおり300人以上が並び、1日あたり800食ほどが出ました。2日目は天気予報では回復するとのことだったので予定どおり行えると思っていたのですが、午後から細かい雨が降り続き、4時頃から本降りの雨となってしまいました。結局2日目も舞台は中止、炊き出しと屋台は実施するという結果になりました。自然のもたらした結果とはいえ残念でしたが、ボランティアの皆様が降りしきる雨の中、奮闘してくださったおかげなんとか無事祭りを終えることができました。

雨の中、屋台に身を寄せて食べ、飲み、語らうのもアットホームでよいものです。また来年の祭りにきていただいたとき、「去年は参ったね」とお互い言い合うことでしょう。本当におつかれさまでした。

(馬場英夫)

**ふるさとホテル三晃の山形職員が初日のレポートを寄せてくれましたので、合わせて掲載します。**

今年の山谷夏祭りも高野山別院の僧侶の方による無縁仏供養の中、仲間を弔うご焼香から始まりました。整然と2列で列を乱すことなく、ご焼香に並ぶ数多くの方々には一人一人の今日までの生活や今の生活の中に何か共通の思いを感じているような姿を見ることができ、お一人お一人手を合わせる静かなそれぞれの表情には様々な思いがあるように見受けられました。そして、その列は公園の外まで続き、供養が終わるまで絶えることなく続き、深く厳粛な思いを感じさせられました。

やがて、その静けさと思いが導いたのか、この夏の暑さを沈めるような雨が玉姫公園に降りそそぎ、穏やかな夏祭りの開催となりました。そして、ボランティアの方が朝より準備に取り掛かり用意していただいたカレーなどの炊き出しを皆さんに呼びかけ食べていただき、またひとつの夏の思い出のひとつとしてもいただきました。

互いに気さくに声を掛け合い、顔見知りにも会えた喜びを笑顔に表し、おいしそうにほおぼっていたのが印象的でした。

(山形 章)



あいにくの雨の中にもかかわらず、多くの方々が集まってくれました



会場で行われた無縁供養の焼香には多くの仲間が並び祈る



雨の中、今年も訪問看護ステーションコスモスの皆さんが医療相談で協力してくれました



ボランティアさんによる炊き出し準備



高野山別院のお坊さんによる川施餓鬼。毎年心をこめて回向を手向けてくださいます



ふるさとの会の宿泊所利用者さんも職員につきそわれ祭りを楽しみました

### ③隅田川花火大会鑑賞会atふるさとホテル三晃

その日のホテル三晃はザワザワ、ウキウキしていました。5Fのベランダに出ると『いらっしゃい』と、レイの首飾りをかけられ一瞬にして気分はワイキキの空港に降り立ったみたい！ハワイを知らない者の想像ですが。ベランダですでに利用者さんが椅子にかけ、テーブルにはジュース、カキ氷が用意されています。

真夏の夜の花火、年に一度の隅田川の花火大会の夜です。

日の出館、千束館の利用者さんも次々と来所し、レイの花をかけてもらい自分の席を見つけます。わくわくで7時を待つと、ドーン、パチパチと音がしてさて花火は？どこ花火は？と探すと、なんとホテル三晃の前には大きな背の高いマンションが！その建物の端からわずかに花火が見えるばかり。時代の流れはここ山谷にも当然あり、昨年まではホテル三晃天井敷敷席で見た花火大会でしたが残念ながらその景観は見る事が出来ませんでした。

底流の変化、利用者さんの重篤化、高齢化、何一つとして同じところに留まるものはない時の流れの中でここ山谷の街もまた時代と共に様相を日々変えているという現実です。

「うーん、来年はカラオケだな」と、田辺ホテル三晃館長。「切ないですね、あの場所は」と、野中日の出館長のしみり声。そして、「もっと上の階に行ってみましょうか！」と、辻職員の苦肉の発言（でも向かいのマン

ションはどれ程高いことか)。ディープ、且つ、いかなる困難にも屈しない宿泊所職員は語り、暗澹とします。しかし、そのうち遠くに上がる花火が見え始めました。皆で「ほらほら、花火が見えるじゃない！」と半分大喜び、そして半分憂いの心でカキ氷などほおばりながら、しばし眺めます。

夏の夜の花火、もちろん夜空に吸い込まれそうな大輪の花火は素晴らしいけれど、遠くの花火を眺めつつそれが、いつかどこかで見た花火、いつかどこかで誰かと見た花火を思い出し、そして誰かを思いながら見る花火があってもいいのではないのでしょうか、といつまでも夜風に吹かれ気持ち良さそうに座っている皆さんを見ながら思いました。

花火が終わる頃、駅に向かう道でふと見上げた空に大大輪の花火が広がりました。大通の浴衣姿の家族連れの賑やかさなど無い路地裏の地べたに座り込み眺める人々の姿、あと何年山谷でこのような景色が見られるでしょうか。

この夜、雨が降らなかった事をひとしきり安心し、喜んでいた人々がいました。花火大会の後片付けの仕事を待っていた120名の就労の方々、そしてその関係者の方々です。

隅田川花火大会は準備、後片付けと年に一度の仕事を出してくれます。何の情報も出てもいないのに「花火の仕事は出た？」と、ここ東京ジョブステーションに仕事を求めてやって来る人々。花火大会と言ってもいろんな風景を見せてくれ、考えさせてくれるのは山谷ならではの景色ではないでしょうか。

ところで来年は、『ホテル三晃・庭花火大会』などはいかがでしょう？  
(佐藤信子)



ホテル三晃前の路上から眺める大輪の花火



屋上で夜空を期待を持って見上げる

#### ④厚生施設・宿泊所協議会 シンポジウム参加報告

6月30日から2日間にわたって京都で「全国更宿施設連絡協議会 第30回総合職員研修会」が開催されました。

ふるさとの会からは水田理事が初日のシンポジストとして、水内俊雄大阪市立大教授、奥田知志NPO法人北九州ホームレス支援機構代表とともに参加。「中間施設利用者の重篤化に伴う地域ケアネットワークの広がり」と題して、昨今の自立援助ホーム ふるさとホテル三晃や宿泊施設・千束館の利用者の変化(重篤化)とそれに伴う援助体制の変容などを主に発表しました。そこでは職員の疲弊問題にも触れつつ、地域で支えるケアの取り組み(CUCS)を紹介。ホームレス支援のありかた、方法の変革が今や求められているのではないかという問題提起をおこないました。

なお、初日の講演では木村陽子先生(総務省地方財政審議会委員)が「セーフティーネットとしての生活保護制度の今後のあり方」と題して、「有期保護制度」の提唱、「複合的な就労阻害要因の排除がわが国にシステムとして存在していない」といった主張もなされ、ふるさとの会の今後の指標になりうる内容に触れることができた研修となりました。

研修終了から帰路の新幹線出発までのほんの一時のこと、ふるさとの会から参加した2名、瀧脇と田辺は「哲学の道」を表敬訪問したことを書き残しておきたい。

(田辺 登)

#### ⑤国立精神・神経センター精神保健研究所 講師派遣

6月26日(木)、国立精神・神経センターにて保健所職員などを対象にした精神保健指導課程研修が行わ

れ、ふるさとの会からは滝脇が講師として招かれ、〈ホームレス支援と精神障害者の居住確保〉をテーマに講習をしました。講習では、ふるさとの会がこれまで展開してきた宿泊所の概要やCDC事業等のこれからの展望が話されました。

講習終了後、研修参加者の方から、こういった活動をしている団体があることに関心を抱いたといった内容の会話があり、アンケートでも「退院促進の取り組みをする際に参考になる話題でした」「地域移行を進めていくと、制度からこぼれおちてしまう人も出てくるというのは忘れないようにしたい」といった声もありました。

その会話やアンケートの結果から、私たちが普段行っている安定した住居の提供と安心できる生活の支援というのは、恐らく多くの方が必要性を感じながらも実際に行っている団体等に関しては情報を持つ機会が少ないのかもしれないと感じました。今回の研修は全国各地から参加されていたこともあり、一つの機会に成り得たのでは、と思いました。また、「あるものをしっかり活用する、つないでいく力の大切さを強く感じました」という意見もあり、改めて地域のネットワークの繋がりや地域でサポートしながら地域で暮らしていくために欠かせない大切なことであると再認識しました。

そして地域の力がなければ地域で支えていくことが困難になり、人が居なければ地域は成り立たない、その関係性を再生していくための一つの役割としてCDC事業がふるさとの新しい事業として展開していけたら良いと思います。

(野中智恵)



受講者の方々からは支援現場の声に基づく瀧脇理事の講義に対する関心の高さがうかがえました

## 6. 今月のボランティア募集

いつもふるさとの会の活動にご支援ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

敬老室日曜開放の特別行事は、毎月第3日曜日に昼食会 & イベントを行っております。今月は土日にわたって夏祭りを行いました。来月9月は、通常通り敬老室にてイベント & 昼食提供を行う予定です。是非ご参加ください。また、コメ、調味料、保存食品などは随時募集しております。お問い合わせは下記まで、お気軽にご連絡下さい。

### < 連 絡 先 >

城北福祉・労働センター別館『敬老室』03-3801-0377 (担当: 町田 / 馬場)

メールアドレス: [boranteahurusato@gmail.com](mailto:boranteahurusato@gmail.com)

ふるさとの会ホームページも更新中! ぜひご覧下さい

<http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>

山谷夏まつり2008は雨の中ではありますが多くの方々の様々なご協力のもと、無事終了いたしました。紙面をお借りしまして心より御礼申し上げます。この祭りは、純粋なボランティア運営のため、引き続き財政支援を募集しております。よろしくご協力をお願い申し上げます。

### ご寄付振込み先

郵便振替口座 00260-5-63218 ふるさとの会

発行元: 特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会

〒111-0031 東京都台東区千束4-39-6

TEL: 03-3876-8150 FAX: 03-3876-7950

E-mail: [hurusato@d5.dion.ne.jp](mailto:hurusato@d5.dion.ne.jp)

HP: <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>